

速報

2011、九州大学山岳会タサルツェ峰チャレンジ、成功ならず

10月6日全員無事マルファ村に下山

報告:CL中溝 幸夫

◆登山活動のあらまし

九州大学山岳会タサルツェ登山隊5名シェルパ8名は、9月19日マルファ村からキャラバンを開始。19日ヤクカルカ(3,900m)、21日ダンプス・パス下(5,100m)、22日ヒドンバレー(4,750m)と順調に高度順化を進めた。24日ヒドンバレー下流、タシカン北峰西面及びタシカンIII峰西尾根に2隊の偵察隊(前者は中溝、本田、竹下、後者はニマ、ダワタシ)を派遣。その報告に基づき、ヒドンバレー側からのタサルツェ攻略を断念。9



月25日、昨年と同様、タシカン南面氷河下5,300mの地にBC建設。28日C1をタシカンI峰・II峰間コル直下に建設。29日隊員4名(中溝、本田、米澤、竹下)とシェルパ4名(ニマ、カジ、デンディ、ダワタシ)がC1入り。翌30日午前4時10分、C1を出て、7時35分I峰山頂に到着。山頂にてタサルツェ側尾根、北峰側尾

根を偵察した。しかし、いずれの尾根も雪庇の張り出し、積雪量、雪の状態が悪く、フィックスワークが困難であると判断した。そこで、サーダーと相談の上、C2の建設不可能と判断し、タシカンI峰山頂からの撤退を決定した。10月2日、隊員竹下とサーダー及び隊員中川原とダワタシの2隊はBCから直接、タシカンIII峰(6,170m)の登頂を試み、前者パーティが成功した。4日下山を開始し、6日に全員無事にマルファ村に到着した。

◆山岳会員の皆様へ

今回のタサルツェ登山に際しましては、会員の皆様の多大なるご支援をいただき、心より御礼申し上げます。結果は不成功に終わりましたがヒマラヤの未踏峰にチャレンジするという山岳会のスピリットに近い将来、再び“始動”することを期待しています。

◆記録概要

- 09. 15 福岡(成田) → バンコク
- 09. 16 バンコク → カトマンズ
- 09. 17 カトマンズ → ポカラ

- 09. 18 ポカラ → ジョムソン → マルフア
 - 09. 19 マルフア → ヤクカルカ(設営)
 - 09. 20 ヤクカルカ → バタセダーラ
 - 09. 21 ヤクカルカ → ダンプス・パス下(ダンプスピークBC)
 - 09. 22 ダンプス・パス下 → ヒドン・バレーキャンプ地
 - 09. 23 タシカン北峰西面及びタシカンIII峰西尾根を2パーティで偵察
 - 09. 24 ヒドン・バレーにて積雪のため終日沈殿
 - 09. 25 ヒドン・バレー → 今年のBC
 - 09. 26 高所用装備の点検
 - 09. 27 C1建設
 - 09. 28 シェルパ隊はルート工作続行
 - 09. 29 隊員4名(中溝、本田、米澤、竹下)C1へ
 - 09. 30 タシカンI峰に登頂するも、タサルツェとタシカン北峰への安全な登路を見い出せず
 - 10. 01 タサルツェ登頂計画を断念し、撤収のためロバ隊をマルファに要請
 - 10. 02 竹下隊員、サーダーのニマとタシカンIII峰へ登頂
 - 10. 03 待機
 - 10. 04 BC撤収 → ダンプス・パス手前のキャンプ地
 - 10. 05 ダンプス・パス手前のキャンプ地 → アルバリ(カルカ)
 - 10. 06 アルバリ → マルフア村 → ジョムソン(ホテル)
- その後、東面(ムクチナート方面)からタサルツェを探索の予定。

◆隊員プロフィール (文責 中川原)

中溝 幸夫 68歳 CL

現役時代の「冷静沈着」、「決断断行」の性格は、現在に至ってもなおも研ぎ澄まされ、さらに磨きをかけていた。心の奥底に潜む暖かさは隊員をまとめ上げ、シェルパ・スタッフとの連携も十分で隊全員の信頼を得た。タサルツェ峰未踏に終わった今、彼の今後の目標設定に興味がある。

【本人コメント】つまるところ、山登りの喜びとはメロサティ(わが友)と共に登ることによってはじめて味わえることを今回のタサルツェ峰で確信した。メロサティたちよ、ありがとう。

本田 忠 68歳 食料

このきついキャラバンや高所を物ともせず、前年に引き続き参加。隊内きつてのエンターテイナー、隊内きつての馬力男だった。隊員の評価では山岳会の鉄人との評価が一部にある。食料係として、要るもの要らないものを用意して、隊員の目と口を楽しま

せた。

【本人コメント】あまりエンターテイナーではないと思いますが……

米澤 弘夫 66歳 装備

中国大陸を中心に岩壁登攀を続ける現役のクライマー。その楽天的性格は今も昔もまったく変わることなく、今回のヒマラヤでも「駄牛！」の尊称どおり彼の行動力は面目躍如であった。「このコルにテントを置けば、タサルツェも北峰もヒョイヒョイですよ」といって隊員を鼓舞する言動は彼生来のものである。

【本人コメント】コルまでテントを出せないのが問題でした。とにかくきつかった。ヒマラヤ登山は若者の世界です。

竹下 朝日 20歳 記録

現役山岳部員ただ一人の参加者。他の隊員との45歳以上の年齢差を感じさせない不可思議な風貌を持つ。1,300m を超える初日のキャラバンでは、38.1℃の高熱を出したが、その後急速に回復。タシカン峰Ⅰ峰とⅢ峰の登頂を果たす唯一の豪のものとなった。発展を祈る。

【本人コメント】不可思議な風貌……はほめ言葉と受け取っておきますね。今後も国内外を問わず沢山の山に登りたいと思います。

中川原 捷洋 69歳 記録2

隊の出発2ヶ月前に突然参加を表明したフトドキ者。出発までに筑波山(実質 800m)を20回ほど登ったが、今回のヒマラヤ登山には何の効果も得られなかった。しかし、その間、BC 周辺のあちこちを歩き回りネパール・ヒマラヤを堪能し、45年来の誓い、「一緒にヒマラヤへ」を実現してくれた友人に感謝している。

【コメント】45年来のメロサティとしての夢をかなえてくれてありがとう。たとえどんなことが中川原氏に起ころうと、強引にヒマラヤ行に誘えるのは今しかない、この瞬間をのがすべきではないという啓示に打たれたのは私の思い違いではなかったと、今では確信している(中溝記)

以上